

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21330159

研究課題名(和文) 子どもと環境に対する包括的支援モデルの構築 小学校臨床における新たな視点の導入

研究課題名(英文) A Comprehensive Support Model of Children and Environments

研究代表者

松本 真理子 (Matsumoto, Mariko)

名古屋大学・発達心理精神科学教育研究センター・教授

研究者番号：80229575

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円、(間接経費) 4,050,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は日本の小学校環境 物理的環境、人的環境 と心の健康について個別支援研究、全体支援研究、連携システム研究と比較文化研究を通して考察し、日本の子どもの心の健康支援に対する提言を行うことである。

結果は、フィンランドとの二国間比較研究を通して、日本の子どもの自尊感情、学校満足感が低いこと、と友人関係は良好であること、子どものアセスメント技法としての投影法の基礎研究、アセスメントのみでなく援助技法として用いることの提示などの成果を得ることができた。

これらの成果は図書3編、論文10編、国内学会29編、国際学会14編として発信した。これらの成果をまとめて来年度には図書を刊行予定である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to show the relationships between mental health of children and school environments-physical environment and human environment- and propose the idea for mental health support for children.

The results are that follows; Japanese children have lower self esteem and lower satisfaction of school life than Finnish children. On the other hand, Japanese children have better relationship than it in friend. And the projective methods are not only personality assessment tools but also useful therapeutic tools in children. We presented these results by books, articles and congress so on.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：小学校臨床 環境 アセスメント メンタルヘルス 国際比較 フィンランド

1. 研究開始当初の背景

本研究は日本の小学校における子どものメンタルヘルス支援について個別支援から一般児童全体の支援までアセスメントとそれに繋がる支援の方法を具体的かつ実践可能なシステムとして広く学校現場に還元することと、子どもを取り巻く環境としての学校、家庭、地域および臨床心理専門家の「共同相互連携支援システム」の構築を試みるものである。これらを統合することにより、小学校臨床における包括的支援モデルという新たな視点を提言する。

2. 研究の目的

主に以下の4点を目的とした。

- 1) 個別支援研究：子どものロールシャッハ法を用いたアセスメントと支援、神経生理学的視点によるアセスメントと支援
- 2) 全体支援研究：テスト・バッテリーによるアセスメントと支援、対人関係の発達促進に関するプログラム開発
- 3) 子どもを取り巻く環境の共同相互連携支援システムの構築
- 4) 現代の日本社会・文化に生きる子ども像とその環境の解明

3. 研究の方法

子どものロールシャッハ法を用いたアセスメントと支援：投影法(ロールシャッハ法、描画法、文章完成法)を用いた一般児童研究および発達障害児研究を行った。具体的には、ロールシャッハ法は個別実施、描画法と文章完成法は集団実施を行い、データは量的分析と質的分析によって検討した。

神経生理学的視点によるアセスメントと支援：NIRS(近赤外線分光法)による脳機能測定および眼球運動測定研究を通して、一般児と発達障害児における認知的側面のアセスメントの方法について検討した。

テスト・バッテリーによるアセスメントと支援：投影法および質問紙法を用いて、気になる子、ひきこもり傾向児のアセスメント方法について検討し、さらに学校場面観察を通して支援のあり方について検討し

た。

対人関係の発達促進に関するプログラム開発：対人葛藤交渉方略質問紙を開発し、小・中学生を対象として発達の変化の特徴を明らかにした。また年齢別の指導方法について検討した。

子どもを取り巻く環境の共同相互連携支援システムの構築：フィンランドにおける学校環境と子どもを取り巻く環境の現地調査および関係者インタビューを通して、子どもの環境の連携システムについて検討した。

現代の日本社会・文化に生きる子ども像とその環境の解明：質問紙(QOL質問紙、Y SR、対人葛藤交渉方略質問紙)投影法(動的学校画、文章完成法、イメージ連想法)を用いてフィンランドとの2国間比較を行い、日本の特徴を明らかにした。

4. 研究成果

日本の子どもの一般児基礎研究を進めたこと、発達障害児(気になる子ども)のアセスメントによる特徴を明らかにしたこと、アセスメントのみではなく援助方法としても用いることができること、などを成果として発表した。成果の一部は図書(2編)として刊行した。

投影法の種類によって、脳活動の様相は異なることが明らかになった。また発達障害児と一般児は同一の刺激に対しても異なる反応を示すことが明らかになった。成果は主に国際学会誌、学会で発表した。

テスト・バッテリーを組んで学校における要支援児童を抽出し、行動観察とその他の情報収集から学校での支援のあり方について検討した。成果は学会と学会誌において発表した。

対人葛藤交渉方略質問紙を用いて発達の特徴を明らかにし、発達段階ごとの学校での支援のあり方について検討した。成果は学会において発表した。

フィンランドにおける子どもを取り巻く環境について学校、養護施設、児童精神科、図書館、職業訓練施設、学童保育所、などを現地調査し、連携のあり方について検討した。成果は学会において発表した。

フィンランドとの二国間比較の結果、日本の子どもの自尊感情の低値、特に中学生が顕著に低いこと、学校生活満足度の低いことと一方、友人関係は良好であること、などが特徴として明らかになった。成果は学会誌、図書、学会において発表した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

松本真理子・畠垣智恵・鈴木伸子他

2011 日本人児童のロールシャッハ法における Popular 反応 性差の視点を中心に 心理臨床学研究 Vol.28, 6 . 805-810 .

Hiraishi,H.,Haida,M., Matsumoto,Mariko, 2012 Differences of Prefrontal Context Activity between Picture-Based Personality Tests: A Near-Infrared Spectroscopy Study. Journal of Personality Assessment, 94(4), 366-371, 2012

袴田雅大、鈴木伸子、松本真理子、他
2012 子どものロールシャッハ反応における形態水準と Popular 反応の再検討 成人基準と子ども基準、心理臨床学研究 vol.30 (3) 406-410

Tuula Merisuo-Storm,
Soili Keskinen,Mariko Matsumoto, et al 2012 Feelings of Wellbeing in Adolescents: A Cross-cultural Study of Finnish and Japanese Students, The Journal of Teacher Education and Educators,Vol.1(1)81-105

松本真理子 2013 子どもの幸せを考える-フィンランドと日本の子どもたち- 子ども健康学会誌、Vol.13 (1) 3-9

Tsuboi,H.、Matsumoto,M.、Keskinen,S.、(2012). Japanese Children's QOL - A Comparison with Finnish Children - Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry, **53**, Supplement

(in print)

野村あすか・松本真理子・森田美弥子他 (2012). 文章完成法から見た小・中学生の学校における自己像および対人関係の発達的变化, 学校メンタルヘルス, **15** (1) , 67-78 .

野村あすか・松本真理子・森田美弥子 (2013). フィンランドにおけるひきこもり傾向児に対する多面的アプローチ 質問紙法, 投影法および行動観察を通じた自己像と対人関係の検討, 心理臨床 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要, **28**, 25-36 .

坪井裕子・松本真理子・森田美弥子他 (2013). フィンランドにおける児童福祉施設の実際, 人間環境大学紀要「人間と環境」電子版 6, 13-24 .

野村あすか・松本真理子・森田美弥子他 (2013). 文章完成法から見た日本とフィンランドの児童生徒の自己像と対人関係, 心理臨床学研究, **31** (5) , 844-849 .

〔学会発表〕(計 43 件)

以下

平石博敏・松本真理子・猪股誠司
2010 Dominant hemisphere of typical developed and autistic children between Picture-Based Personality Tests -A near-InfraRed Spectroscopy Study-, International

Congress of Applied Psychology
(Melbourne,Australia)

Tsuboi, H., Matsumoto, M.,
Keskinen, S., Milovanov, R., Suzuki,
N., Morita, M., Hatagaki, C.,
Nomura, A., Maruyama, K., Makita,
R. (2011). An International
Comparison of Children ' s QOL in
Japan and Finland Using
Kid-KINDL and YSR , 14th
International Congress of ESCAP -
European Society for Child and
Adolescent Psychiatry (Finlandia
Hall , Helsinki , Finland)
Supplement, S208. 6月14日

鈴木伸子・坪井裕子・野村あすか・丸
山圭子・蒔田玲子・山本明日香・大久
保諒・畠垣智恵・松本真理子・森田美
弥子 (2011). 日本とフィンランドの子
どもにおける対人交渉方略の発達 , 日
本学校心理学会第13回大会 (信州大学
教育学部 , 長野市) 発表抄録集 , A7 .
10月10日

蒔田玲子・丸山圭子・山本明日香・鈴
木伸子・坪井裕子・野村あすか・大久
保諒・畠垣智恵・松本真理子・森田美
弥子 (2011). 日本とフィンランドの子
どもにおける学校環境と QOL 小学
校中学年を対象に - 日本学校心理学
会第13回大会 (信州大学教育学部 , 長
野市) 発表抄録集 , B7 . 10月10日

(21) Suzuki, N.,Matsumoto, M.,
Keskinen, S., Tsuboi, H., Nomura, A.,
Maruyama, K., Oya, Y., Kivimäki, R.,
& Morita, M. (2012). The Interpersonal
Negotiation Strategies (INS) in
Japanese children (I) A comparison

between Japan and Finland,
34th International School
Psychology Association (McGill
University, Montreal, Canada)
Abstract, 162. 10th, July

(22) Tsuboi, H., Matsumoto, M.,
Suzuki, N., Keskinen, S., Nomura,
A., Maruyama, K., Oya,
Y., Kivimäki, R., & Morita, M.
(2012). The Interpersonal
Negotiation Strategies (INS) in
Japanese children () The
features of children in welfare
institutions, 34th International
School Psychology Association
(McGill University, Montreal,
Canada) Abstract, 163. 10th, July

(23) Nomura, A., Matsumoto,
M., Tsuboi, H., Suzuki, N.,
Keskinen, S., Maruyama,
K., Oya, Y., Kivimäki, R., &
Moriyta, M. (2012). A
Study on the Self-image
and Interpersonal
Relationships of Japanese
and Finnish Students at
School: Using the Sentence
Completion Test ,34th
International School
Psychology Association,
(McGill University,
Montreal, CANADA)
Abstract, 167. 10th, July

(24) Maruyama, K., Nomura, A.,
Matsumoto, M., Tsuboi, H.,
Suzuki, N., Keskinen, S.,
Oya, Y., Kivimäki, R., &
Morita, M. (2012). The

Relationship between Children and Their Peers as well as Teachers in the Kinetic School Drawing -A comparison study between Japanese students and Finnish students- 34th International School Psychology Association (McGill University Montreal, Canada) Abstract, 210. 10th, July

- (25) Oya, Y., Hatagaki, C., Matsumoto, M., Keskinen, S., Tsuboi, H., Suzuki, N., Nomura, A., Maruyama, K., Kivimäki, R., & Morita, M. (2012). Associated images of their school in children brought up by Image-Association Method: Comparison between Japan and Finland 34th International School Psychology Association 34th International School Psychology Association (McGill University, Montreal, Canada) Abstract, 165. 10th, July

(26)

- (27) Suzuki, N., Matsumoto, M., Keskinen, S., Tsuboi, H., Nomura, A., Kaito, K., Oya, Y., Kivimäki, R., & Morita, M. (2013). A Cross-Cultural Comparison about Solutions to Interpersonal Conflict between Japanese and Finnish students. 15th International Congress of European Society for Child and Adolescent Psychiatry (Convention Centre, Dublin, Ireland) Supplement, S249. 8th, July

- (28) Nomura, A., Matsumoto,

M., Keskinen, S., Tsuboi, H., Suzuki, N., Kaito, K., Oya, Y., Kivimäki, R., Matsumoto, H., & Morita, M. (2013). Comparing QOL of Students with Social Withdrawal Tendencies in Japan and Finland, 15th International Congress of European Society for Child and Adolescent Psychiatry (Convention Centre, Dublin, Ireland) Supplement, S251. 8th, July

- (29) Oya, Y., Hatagaki, C., Matsumoto, M., Keskinen, S., Tsuboi, H., Suzuki, N., Nomura, A., Kaito, K., Kivimäki, R., & Morita, M. (2013). A Cross-cultural Comparison of Self-images between Japanese and Finnish Students, 15th International Congress of European Society for Child and Adolescent Psychiatry (Convention Centre, Dublin, Ireland) Supplement, S250. 8th, July

〔図書〕(計 3件)

松本真理子・金子一史 編著
子どもの臨床心理アセスメント 2010 金剛出版

松本真理子・Keskinen, S. 編著
(2013) フィンランドの子どもを支える学校環境と心の健康～子どもにとって大切なことは何か, 明石書店

松本真理子・森田美弥子・小

川俊樹 2013
児童青年期臨床に生きるロール
シャツ八法,金子書房

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
6. 研究組織
(1)研究代表者
松本真理子(名古屋大学)

研究者番号：80229575

(2)分担研究者
森田美弥子(名古屋大学)
研究者番号：80210178

(3)分担研究者
鈴木伸子(愛知教育大学)
研究者番号：70387497

(4)分担研究者
金子一史(名古屋大学)
研究者番号：80345876